令和６年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　036　石神井西小学校

	課題分析	授業改善策
１年	算数では、たし算やひき算の計算の知識・技能が定着している児童が多い。一方で、問題文を読んで立式することに苦手意識をもっている児童がいる。題意を理解し、その解決する力を養うことが必要である。 国語では、平仮名を習得できていない児童が２割程度いる。また、平仮名を習得していても、文を書くことが苦手な児童もいる。自分の思いや考えを言葉にする力を養うことが必要である。	児童が問題文を読み取りやすいように、身近なものを扱ったり、具体物を用いたりする。その上で、自分が考えた式を伝えたり、他の児童の考えを聞いたりすることで、思考力や表現力を育成する。 音読や視写を行い、平仮名の読み書きに慣れさせるようにする。文を書く際には、書く内容について話させたり、文例を示したりする指導を行う。よく書けた児童の作品を参考に示すことも行う。
２年	算数では、たし算やひき算の筆算の仕方がよく身に付いている。一方、長さやかさ、時刻と時間などの単位や数量については、理解が不十分な児童が２～３割程度いる。量的感覚を養うことが必要である。 国語では、文章を書くことを苦手としている児童が多く、漢字の習得にも課題がある児童もいる。学習した漢字を使い文章を書く力を養うことが必要である。	数量や単位の学習では、実際に測ったり操作したりする活動を十分に行い、量的感覚を養う。その上で、単位の換算が的確にできるよう、繰り返し練習問題を行う。 文章を書く学習では、伝えたいことを話し合わせたりメモしたりする時間を取り、書く内容を十分に想起させる。なかなか書き出せない児童には、モデル文を視写させたり、スムーズに書き出せるような支援をしたりして、支援を行う。活用しながら、身につけられるように指導を繰り返していく。
３年	算数では、わり算の習熟に課題がある児童が多く、特にあまりのある計算だと手が止まってしまう児童も多い。商やあまりの意味に着目して、日常生活の場面に照らし合わせながら考える力を養うことが必要である。 国語では漢字の習得に課題がある児童が多い。 また、国語に限らず、問題を読み取り、課題を把握する力が弱い児童が一定数いる。総合的な読解力を養うことが必要である。	授業の導入でかけ算九九や百マス計算に取り組ませ、繰り返し基礎的な計算をする時間を設けることで、つまずきを無くすようにする。 あまりのあるわり算については、具体物を用いて視覚化することで、問題の場面を捉えることができるようにする。 漢字の学習では、授業内で書き順を押さえたり、熟語や部首の意味を確認したりすることで、児童が楽しみながら漢字が習得できるようにする。 読解力については、問題からわかることや聞かれていることにアンダーラインを引かせることで、問題に取り組む力を養っていく。
４年	算数では、問題文の読み取りが不十分なため、正しい演算決定ができていない児童が多い。題意を理解して、数量の関係を理解する力を養うことが必要である。 国語では、読書が好きな児童が多いが、文章を正しく読み取る力は、個人差が大きい。文章の構成をとらえ、正しく読み取る力を養うことが必要である。	数量の関係を理解するために、図、テープ図、数直線図などを使って表現する活動を積極的に取り入れる。また、既習事項をふまえて数学的な考え方が見付け出せるような指導法をする必要がある。 文章の構成を明らかにして内容を整理するなど、正しく読み取るための手だてを指導する。また、対話的な授業や語彙を増やす学習も重視し、話す力、読み解く力を確実に身に付ける。

5年	算数では、基本的な計算はできるものの、小数点の処理や倍の計算になると、桁を間違えてしまう児童が多くみられる。桁数が大きくでも、正確に計算処理をする力を養う必要がある。 国語では、「言語」の分野の敬語、漢字の成り立ち、熟語の意味などの習得が十分でない。そのため、語彙を増やすことが必要である。	小数点の動かし方や０の数にばかりに注目するのではなく、十進数位取りの意味や、数の構成をきちんと理解し説明できるように丁寧に指導する。 言語については、その単元の授業だけでなく、他教科、家庭学習、学校生活など、語彙を増やすことを念頭に置いた言語活動を重視して指導する。
6年	算数では、わり算等の基礎的な計算問題や速さ、そして割合につまずきがある児童が多くいる。そのため、数と計算、数量関係を中心とした基礎基本の力を重点に養う必要がある。 国語では、書くことに関することや、漢字を正しく使うことに課題のある児童が多い。正しい漢字を使い、様々な文章を書く力を養う必要がある。	算数では、学習毎に基礎的な計算プリントを行い、基礎基本の向上にあたる。学期末には、重点的に割合や速さに関する問題の復習を取り入れる。 国語では、定期的な百マス作文の取り組みや学習の振り返り、キャリアパスポートの作成など、書く機会を意図的に増やす。漢字については学習、宿題、他教科の時間を含め、正しく活用していく指導を重ねる。
理科	生活経験に絡めて実験結果を予想したり、結果から考察したりすることが苦手な児童が多い。また実験結果を知識として暗記している児童や考察と結果の区別が付いていないも多い。自分なりの考えや根拠のある予想を書く力、結果から分かったことを練り上げて書く力を養う必要がある。	導入で、予想の根拠となる既習事項を確認しながら授業を展開する。ノートに貼るプリントを用意し、予想とその根拠をセットで書く習慣をつけさせる。ノートを理科室に置くことで、頻繁にノートを見取り、個人が抱える課題を見落とさないようにする。考察とは何か、どのように書くのかについて丁寧に指導していく。
音楽	表現活動において、積極的に参加する児童が増え、どのように歌いたいかという思いももてるようになってきた。一方で、そのためには何に気を付け、何を工夫したらよいか解決のための手段を身に付けていない現状がある。音楽用語等の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる必要がある。	曲との出会いを大切にし、曲想と音楽の特徴との関わりについて気付かせる。ペアやグループ、学級全体と共有の仕方を工夫し、思いや考えが深まるようにしていく。音楽用語を用いて記述したり、交流したりする中で、基礎的・基本的な知識を育み、表現活動を充実させることで技能の習得を図る。
図工	絵や工作で表す活動を楽しみ、学んだ技能を生かして意欲的に取り組む様子が見られる。一方で制作する過程において、作りたいものが思いつかない、見通しをもって作業ができない様子が見られる。経験から表したいものを発想したり、見通しをもって構想したりする造形的な創造力の育成が必要である。	日頃から対話的な鑑賞活動を積極的に行い、様々な作品に触れることで自分の好きな表現を見つけることで発想力を養う。アイデアスケッチや計画書を活用して自分のイメージに合う適切な材料や作り方を考える機会を作り、制作の見通しをもって工夫して創造する力を養う。